

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成31年3月22日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 それでは、お手元の広報日程に基づいて、補足説明をさせていただきます。

1ページ目については、追加の情報はございません。

2ページ目、3月26日火曜日、(4)第696回の審査会合についてでございます。こちらは特定重大事故等対処施設に係る審査のため、非公開として開催させていただきます。

審査の対象でございますが、3件、四国電力・伊方発電所3号機の工認、また、関西電力・高浜発電所1号機、2号機の工認及び同じく関西電力・大飯発電所3号機、4号機の許可についての審査が行われる予定でございます。

次に、その下、(5)第697回の審査会合が同日3月26日の午後に開催される予定でございます。こちらは、審査の案件としては、今のところ2件予定されております。

まず、東北電力・女川発電所2号機についての審査が行われる予定でございます。内容は、地下水位の設定についてのコメント回答、また、プラント側に関しましては、制御室の居住性についてのコメント回答、また、大規模損壊に関しての概要説明を聴取する予定でございます。

次に、2件目といたしまして、こちらは関西電力と九州電力の合同になりますが、美浜発電所、大飯発電所、玄海発電所、川内発電所、これらについて、燃料被覆管に関するバックフィットについての工事計画認可の審査が行われる予定でございます。こちらは2月に申請がございましたので、概要についての説明をお聞きする予定でございます。

次に、その下、(6)第266回の核燃料施設等に関する審査会合が、こちら同日午後に開催される予定でございます。審査の対象は、大きく2件予定されております。

まず、議題1といたしまして、こちらは記載のとおりでございますけれども、原子力研究開発機構の原科研のJRR-3、こちらの設工認の審査が行われる予定でございます。内容は、記載されておりますように、計測制御系統施設の一部更新、及び議題1-2として記載されておりますが、反応度制御盤の一部更新、これらについてのコメント回答の予定でございます。

次に、議題2といたしまして、原子力研究開発機構のHTTRの新規制基準適合性の審査が

行われる予定でございます。こちらはこれまでの審査に引き続きまして、今回もBDBAについての審査、回答を踏まえての審査を行うとともに、全体を通じた整理・確認を引き続き行うという予定でございます。

次に、3ページ目上段、3月27日水曜日、(9)第19回のもんじゅ廃止措置安全監視チーム会合が午後開催される予定でございます。議題といたしましては、もんじゅ廃止措置の実施状況についてということで、使用済燃料の取り出しの作業について、次回の実施に向けた工程についての具体的な説明をお聞きするという予定でございます。

次に、その下、3月28日木曜日、(10)第28回の東海再処理施設等安全監視チーム会合が開催される予定でございます。議題は、記載されております5件の内容が予定されております。

まず、議題1にございます核サ研・プルトニウム燃料第二開発室における管理区域内汚染について。

次に、議題2として、原子力研究開発機構における核燃料物質の集約化について。

次に、議題3として、原科研廃棄物処理場のドラム缶の健全性確認について。

これらについて、いずれも進捗状況の確認、あるいは今後の計画などについて、説明を聞く予定でございます。

次に、議題4、5において、東海再処理施設についての議論が行われる予定でございます。議題4において、ガラス固化再開に向けた準備状況についてお聞きし、また、議題5といたしまして、廃止措置に係る進捗ということで、こちらは廃止措置計画の変更の申請が3件提出されておりますので、それらについての概要の説明をお聞きするという予定でございます。

次に、その下、3月29日金曜日、(11)第8回の震源を特定せず策定する地震動に関する検討チーム、こちらが午前中に開催される予定でございます。

こちらは、前回の検討チームの会合において、標準応答スペクトルの案について議論が行われたところでございます。今回は、議題1といたしまして、これまでの会合、また、案についての事業者の意見を聴取するという予定でございます。

次に、議題2として、これまでの会合における議論の整理ということで、有識者の委員の方々などからの意見などについて、整理を行うという予定でございます。

次に、その下、(12)第267回の核燃料施設等に係る審査会合が同日午後開催される予定でございます。こちらは、議題に記載がございましたように、日本原燃の再処理施設・廃棄物管理施設・MOX燃料加工施設の新規制基準適合性の審査ということで、内容といたしましては、今週の委員会定例会での議論、定例会において審査の状況についての委員からの指摘等々が行われたところでございます。その議論を踏まえまして、そうした指摘事項を事業者にお伝えをすることが主な目的ということでございます。

次に、4ページ目、(13)第3回安定ヨウ素剤の服用等に関する検討チーム、こちらが同日29日金曜日の午後開催される予定でございます。こちらは検討チーム会合の議論

のまとめについてということで、こちら、安定ヨウ素剤の服用などに関するマニュアルについて議論を行ってきておりますが、マニュアルの改正の方向について、提言の案をお示しして、議論を行うという予定でございます。

最後に、その下「3. 委員の現地視察について」ということで、視察の予定が一つ入っております。

新検査制度の試運用状況の現地視察ということで、3月28日、29日の2日間にわたりまして、東京電力・柏崎刈羽原子力発電所に山中委員ほかが行き、視察を行うという予定でございます。

視察の目的と内容でございますが、現在、御案内のとおり、新たな検査制度の試運用を進めてきているところでございますけれども、この一環といたしまして、CAP、事業者における改善措置活動の取り組みが進められているところでございます。このCAPの取り組みについて、現在来日している米国NRCの職員と東京電力の事業者職員との間で意見交換会を行うということとなりました。この意見交換の状況や、また、関連して、検査官のさまざまな活動状況について、山中委員が視察を行うというものでございます。

私からの御説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ドイさん。

○記者 電気新聞のドイです。お願いします。

(12) 番、29日の核燃料施設の審査会合なのですけれども、これは対応委員が田中委員と石渡委員になっているということは、この指摘事項をお伝えするというのは、施設側、地震・津波側、両方ともという理解でよろしいのでしょうか。

○大熊総務課長 今週の委員会で、御案内のとおり、プラントに係るもの、また、地震・津波に係るもの、両方の内容がございました。これらをこの会合で順次お伝えをするということになると想定しております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。